



公益財団法人

栃木県ひとり親家庭福祉連合会



宇都宮市野沢町4-1

☎ 028(665)7806

発行人 栗橋幸子

印刷所 高橋平版社

平成三十年度

ひとり親家庭福祉研修大会



七月八日(日)から九日(月)鬼怒川観光ホテルに於いて「栃木県ひとり親家庭福祉研修大会」が開催されました。子ども達、私達が幸せと思えるのは? 幸せはどこに? それは安心できる居場所があること...と、私は思います。今年度は、栃木県保健福祉部 子ども政策課 児童家庭支援・虐待対策担当 副主幹 廣木友子氏による行政説明、基調講演は「誰もが幸せに生きるために」

茂木町 川田 芳子

と題して、特定非営利活動法人だいじょうぶ理事長 畠山由美氏による講話がありました。畠山氏のお話は現在進行形で、だいじょうぶの取組は私達に直結するものだと考えさせられました。出てきた課題をクリアしていくのが私達のやるべき事だと思います。分科会の発言では、学習支援のがんばり、生活支援のがんばり、会の自立のための努力、子どもが置かれている現状、など話し合いました。そして何と云っても、魅力のある会になることが大切だと考えさせられました。私にとって大変得る事の多い研修大会でした。



参加者の声

鹿沼市 野呂 江身子

幸せな気持ちは人を笑顔にし、そして笑顔は人をしあわせにします。しかしながら、笑顔にならない子ども、虐待や貧困で普通の暮らしがままならない子どもがいる現実があり、虐待による死亡事例も後を絶ちません。虐待も貧困も家庭の中での出来事で、実際の状況は見えにくく、子どもは自分の窮地を社会に訴える手段がありません。すべての子どもが生まれ育った環境に左右されず、普通の暮らしができる様な仕組みづくりが必要であり、幸せを感じられないまま育った子どもを社会に出してはいけないと畠山氏は講演の中で度々訴えておられ、強く心に残りました。子育ては、様々な環境が整っていないればうまくいかない可能性が高く、子育ての条件が悪いと虐待は起こりやすい。子育てでは、母親のみでは不可能です。「だいじょうぶ」では、地域の子どもに関わる家庭を増やし、社会全体で子どもを育てる意識を広げる活動をしているそうです。子どもの生きる権利を守る、子どもが社会に出るまでの応援とお手伝いを我々も担っていかなければならぬと感じました。



第24回 栃木県民福祉のつどい



会長表彰を受けて

佐野市 関根 弘子

私が夫を亡くして四十年経ちます。亡くしてすぐに地区の方が来て、説明もなく年会費と言われ、それから母子会にお世話になり四十年経ちました。

夫が勤めていた会社に入社し二十九年働きました。色々苦労もありましたが退職となった時、佐野、田沼、葛生の三地区が合併しました。定年したばかりでしたが前会長から副会長を頼まれ引き受けてから五年が経ちました。前会長が急に辞めることになり、断ったのですが会員の皆さんが後押しをしてくださるとのこと

で引き受けることになり、何も分からなく大変でしたがみなさんが協力してくださったおかげで今に至っています。

また、ひとり親家庭福祉連合会事務局の方には大変お世話になりながら会長表彰を頂くことができました。本当にありがとうございます。これからももう少し頑張っ



知事表彰を受けて

茂木町 川田 芳子

この度、第二十四回栃木県民福祉のつどいにおいて、知事表彰を受けました。

茂木町の小さなひとり親家庭福祉会の私が受彰することは、とても光栄なことと思ひ、常々活動されている県内会員の皆様の代表という気持ちで受けて参りました。

思えば、町の会員になって三十六年になります。町社協、また代々の会長に恵まれここまで来たのだという思いです。

これからの、ひとり親家庭のために少しでも役に立ちたいと考えて歩いて行くつもりです。ありがとうございます。

県民福祉のつどい 表彰者

第24回栃木県民福祉のつどいにおいて、永年の母子寡婦福祉の功勞により次ぎの方が表彰されました。

《栃木県知事表彰》

母子家庭等支援功勞者

鹿沼市	又 市	君 枝
真岡市	原 口	久 子
茂木町	川 田	芳 子
芳賀町	市 村	和 子

《栃木県ひとり親家庭福祉連合会長表彰》

母子寡婦福祉関係功勞者

佐野市	関 根	弘 子
鹿沼市	湯 澤	た い
鹿沼市	島 田	ミヤ子
矢板市	金 田	トシイ
那須烏山市	村 上	力 ツ
益子町	菊 地	文 子

～おめでとうございました～

芳賀町

市村 和子



芳賀町ひとり親家庭福祉会では、新規会員も増え十七名となり、会として少し前進して明るくなった気がします。

研修会の内容については、社協の方がアドバイスをしてくださり、おんぶに抱っこですが毎回楽しく開催しています。

昨年の暮れには加入促進事業として、非会員の参加もあり門松作り体験を行いました。専門のボランティアを講師に呼びびし、立派な松や梅、その他の飾り物も用意してくれました。自分達の好きな材料を選び各グループに分かれ二時間くらいかかりましたが、それぞれ立派な門松が出来上がりました。

二月には母子にも参加してもらえような内容として、鉄道博物館と川越蔵の街への日帰り旅行を実施しました。鉄道博物館では、広い館内に様々な電車があり、駅員の姿で切符を配布したり案内等もしてくれました。

蔵の街では、今では有名になっているだけに観光客もたくさんおり、どこのお店も賑わっていました。何事もなく無事に帰宅することができ、また会員・非会員の方との交流も良い思い出になりました。

真岡市

塩谷 淳子

真岡市母子寡婦福祉会は、五月に日帰り研修を行いました。参加者三十四名で、なかがわ水遊園に行き思い思いに楽しんできました。残念ながらカピバラが泳ぐ姿は見られませんでした。

また六月には、寡婦旅行で北茨城に一泊で行ってきました。雨が降っていましたが、美術館に行ったり、夕食は魚料理がとっても美味しく、カラオケも大変盛り上がりました。運転手さんのご好意で花しょうぶ園や道の駅に寄り楽しい旅行ができました。



現在の佐野市の会員数は、母子寡婦父子総勢九十二名です。新年度最初の事業総会には、佐野市長が出席してください。色々なお話をしてください。仕事の都合で若年部の参加が少なかったのが大変残念でした。

佐野市

関根 弘子



にしてはいい感じです。十二月は、クリスマスケーキ作りを行いました。これも楽しみの一つかと思えます。作り終わって食事を取りながら色々意見を聞き今後の参考にして行きたいと思えました。これから若年部の役員に代わって行かなくてはと考えるのですが、なかなか良い返事が無くて困っているところです。後一、二年は頑張ってください。



大田原市

川上 佳代子

六月二十日、全体研修会で緑の長瀬ライン下りに行ってきました。参加者は二十名です。会員さんも高齢になり外出する機会も減って体力不足なので健康を維持するためにも軽い運動を兼ねての日帰りです。

雨の日になってしまいました。が、現地に着き船下りをする時には完全に雨が止んで、スリル

満点で迫力のある川下りを満喫しました。又、近隣の宝登山神社にも参拝できました。

昼食は地元の竹膳料理を頂き上里カンターレでは色々なスイーツを堪能し、体も適度に解れ有意義な一日を過ごしました。



(公財)栃木県ひとり親家庭福祉連合会
ロゴマークについて

当法人のイメージロゴマークを作成しました。パンフレットやホームページ等に掲載するなどして、当法人の理解と関心を高め、当法人が実施する各事業へのひとり親家庭の母子・父子・寡婦の参加等の増大を図るとともに、併せて、新規会員の加入促進を図ることを目的としています。

ひとり親家庭の親と子が両手を繋いで、明るい未来を創造するための思いをハートで表現しています。

また、色彩については、親の愛情を表す赤と、幸福と親愛感を生み出す黄色を採用しました。



ひとり親家庭サポーターのつどい

「いくらかかるの？ 子どもの教育」をテーマに開催します。

日時 11月4日(日) 12時30分～(受付開始 11時40分～)

場所 パルティとちぎ男女共同参画センター・ホール

内容 講演 「ひとり親のための教育費と子育ての話」

NPO法人しんぐるまざあず・ふおーらむ

理事 **なかじま ともみ氏**



参加費 無料 どなたでも参加できます。
ひとり親家庭のお父さん・お母さん
ひとり親家庭に理解のある方など

託児 あり (事前にご連絡ください)

参加申込み・お問い合わせ

栃木県ひとり親家庭福祉連合会
☎028-665-7801, 7806



家庭生活支援員養成研修受講生募集

ひとり親家庭の方が、病気や冠婚葬祭、学校行事、就職活動などで、育児に困った時に子育てをサポートする家庭生活支援員の養成研修受講生を募集します。一緒に子育てのサポートをしませんか？

▶土曜日コース

1月19日

2月2日・9日・16日

▶日曜日コース

1月20日・27日

2月3日・17日

※上記の他、保育施設での見学実習があります。

内容 子育て支援に関する講義

対象 5日間の講習をすべて受講できる方。家庭生活支援員として登録し、子育て支援に従事できる方

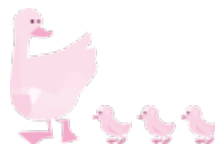
場所 とちぎ男女共同参画センター(パルティ)及び居住地区の保育施設

受講料 無料

託児 あり(予約制)

申込締切 12月18日(火)

お問い合わせは 栃木県ひとり親家庭福祉連合会
☎028-665-7801, 7806



とちぎの子ども育成憲章

明日を担う子どもたちが 夢と希望を持ち
心豊かでたくましく成長することは 県民すべての願いです

わたしたちは 子育てに積極的にかわわり
子どもたちをみんなで育てていく決意を込め ここに憲章を制定します

わたしたちは

一、子どもたち一人ひとりを尊重し 命を大切にします

一、子どもたちとのかかわりを深め
思いやりの心をはぐくみます

一、子どもたちとともに 学び 喜び 励ましあい
社会の一員としての自覚を育てます

一、一人ひとりが子どもたちの手本となるよう行動します

一、とちぎの豊かな自然 伝統 文化を守り
子どもたちに引き継ぎます

平成22年2月9日
栃木県

編集後記

梅雨が平年より早く明け
て間もなく猛暑の日々。熱
中症、日射病にならぬよう
注意の夏でした。この猛暑
の中、西日本豪雨台風、北
海道地震が大きな被害も
たらしました。被災され
た方々の恐怖とご苦労はい
かばかりかと胸を痛めました。
心よりお見舞い申し上げ
ます。

第二十四回栃木県福祉
のつどいにおいて、各表彰
を受彰された皆様おめでとう
ございます。今後も会の
発展のためにご尽力くださ
います様お願いいたしま
す。白梅発行にあたりご協
力頂いた皆様に感謝申し上
げます。ありがとうございます。
ました。

〈広報部会〉

田口・齋藤・赤荻・高田
山口・木村・小葉・三田
織田・野呂

「白梅」は、赤い羽根共同募金
配分金により発行しています。